

第7章 特別支援教育

第1節 概要

県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念とする答申を受けた。本答申を具体的な施策に反映させるため、第6次福島県総合教育計画（改訂版）においては、「地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進」、「小・中学校における特別支援教育の充実」、「高等学校における特別支援教育の充実」、「特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実」、「教員の特別支援教育に関する指導力の向上」、「特別支援学校の在り方の検討（再掲）」の6項目を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

また、「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、高等部設置県立特別支援学校全校による特別支援学校作業技能大会を開催した。各校の進路に関する学習の成果を発表し合うとともに、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けることを通して、生徒の自立や社会参加につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「次世代のふくしまを担う人材育成事業（特別支援学校における就労総合支援事業）」を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。

「未来へつなぐ子育て・教育充実事業」では、市町村教育委員会と連携協力の下、医療、保健、福祉、労働との関係機関と連携を図りながら、県内全ての特別な支援を必要とする幼児児童生徒が地域において一貫した支援を受けることができる相談支援体制の整備を進めた。特別支援学校教員に対する研修の充実を図り専門性の向上を図るとともに、特別支援学校のセンター的機能による、幼稚園、小・中・高等学校への相談支援や研修支援を充実させ、地域における指導支援の充実を図った。さらに、教育事務所を中心として特別支援教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を果たすとともに、地域支援チームとして連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じ、支援体制整備に向けた取組を行った。

「特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を開催し、本県における医療的ケアの在り方について協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（13校）に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

第2節 学校管理

1 児童生徒数と教職員定数

(1) 児童生徒数の推移

種別	部/年度	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
視覚障がい 特別支援学校	小学部	7	6	6	4	3	5	5	3	1	3
	中学部	6	7	8	6	5	3	4	5	8	7
	高等部	33	35	30	25	24	22	19	17	12	14
	計	46	48	44	35	32	30	28	25	21	24
聴覚障がい 特別支援学校	幼稚部	14	16	11	17	12	10	14	17	17	18
	小学部	42	46	54	45	44	44	38	32	23	34
	中学部	21	17	18	22	25	26	28	26	29	20
	高等部	25	29	24	24	22	23	28	28	28	29
	計	102	108	107	108	103	103	108	103	97	101
知的障がい 特別支援学校	小学部	498	504	501	517	529	543	551	600	567	632
	中学部	345	334	362	373	371	370	376	384	348	389
	高等部	763	824	757	749	751	803	819	812	742	821
	計	1,606	1,662	1,620	1,639	1,651	1,716	1,746	1,796	1,657	1,842

種別	部/年度	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
肢体不自由 特別支援学校	小学部	119	120	124	128	142	139	136	130	126	113
	中学部	71	58	71	68	69	70	66	71	70	78
	高等部	78	83	75	76	72	79	82	82	73	67
	計	268	261	270	272	283	288	284	283	269	258
病弱 特別支援学校	小学部	37	40	34	29	35	27	33	30	29	26
	中学部	36	46	46	36	25	32	23	40	35	31
	高等部	45	44	46	40	32	37	35	36	46	57
	計	118	130	126	105	92	96	91	106	110	114
合 計		2,154	2,145	2,214	2,148	2,157	2,170	2,224	2,271	2,303	2,339

※1 知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

※2 視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

(2) 令和2年度児童生徒数

(R2.5.1 学校基本調査、訪問学級を含む)

種別	性別	部・学年	幼稚園	小学部						中学部				高等部						総計	
				本科						専攻科	合計										
				1	2	3	4	5	6			計	1	2	3	計	1	2	3		計
視覚障がい 特別支援学校	男			2	0	0	0	1	0	3	0	2	1	3	1	0	3	4	4	8	14
	女			0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	1	1	1	3	3	6	10
	計			2	0	0	0	1	0	3	0	4	3	7	2	1	4	7	7	14	24
聴覚障がい 特別支援学校	男	10		4	5	1	1	4	4	19	2	5	2	9	10	3	6	19			57
	女	8		5	0	0	5	3	2	15	1	4	6	11	4	2	4	10			44
	計	18		9	5	1	6	7	6	34	3	9	8	20	14	5	10	29			101
知的障がい 特別支援学校	男			84	79	85	74	73	69	464	86	79	82	247	190	188	158	536			1,247
	女			18	37	34	27	31	21	168	47	56	39	142	87	88	110	285			595
	計			102	116	119	101	104	90	632	133	135	121	389	277	276	268	821			1,842
肢体不自由 特別支援学校	男			12	8	10	9	11	14	64	19	11	11	41	15	11	15	41			146
	女			6	11	6	8	8	10	49	13	14	10	37	11	8	7	26			112
	計			18	19	16	17	19	24	113	32	25	21	78	26	19	22	67			258
病弱 特別支援学校	男			1	3	5	3	6	2	20	4	7	9	20	12	9	12	33			73
	女			0	1	3	1	1	0	6	2	4	5	11	7	4	13	24			41
	計			1	4	8	4	7	2	26	6	11	14	31	19	13	25	57			114

※ 市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

(3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

種別	年度	視覚支援学校・聴覚支援学校										特別支援学校									
		23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
教員	校長	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	12	12	12	12	12	13	13	13	13	
	教頭・教諭	121	117	119	115	131	129	133	131	124	126	994	965	963	967	1,145	1,157	1,209	1,242	1,250	1,250
	養護教諭	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	25	24	24	23	24	24	26	26	26	27
	兼任主事																				
	補充教員	5	10	11	16	14	8	13	12	10	15	132	162	159	160	160	150	170	189	173	154

	種別 年度	視覚支援学校・聴覚支援学校										特別支援学校									
		23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
教員	講師																				
	寄宿舎指導員	24	26	25	25	25	27	28	28	28	28	34	33	33	32	34	32	31	30	28	27
	実習助手	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	24	24	24	24	24	25	27	27	27	27
	計	164	167	169	170	184	178	188	185	176	183	1,221	1,220	1,215	1,218	1,399	1,400	1,476	1,527	1,517	1,498
事務職員	11	11	12	11	11	11	11	11	11	11	48	49	53	51	50	51	53	53	54	53	
その他の職員	技能労務員																				
	学校司書																				
	用務員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6	6	6	6	6	7	6	6	5	5
	ボイラー技師	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
	栄養職員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	7	9	8	9	9	9	10	10	10	10
	調理給食員																				
	技能訓練士																				
	マッサージ師																				
	運転手											1									
	計	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	16	17	15	16	16	17	17	17	16	16
合計	181	184	187	187	201	194	204	201	192	199	1,285	1,286	1,283	1,285	1,465	1,468	1,546	1,597	1,587	1,567	

	種別 年度	計									
		23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
教員	校長	14	14	14	14	14	14	15	15	15	15
	教頭・教諭	1,115	1,082	1,082	1,082	1,276	1,286	1,342	1,373	1,374	1,376
	養護教諭	29	28	28	27	28	28	30	30	30	31
	兼任主事										
	補充教員	137	172	170	176	174	158	183	201	183	169
	講師										
	寄宿舎指導員	58	59	58	57	59	59	59	58	56	55
	実習助手	32	32	32	32	32	33	35	35	35	35
計	1,385	1,387	1,384	1,388	1,583	1,578	1,664	1,712	1,693	1,681	
事務職員	59	60	65	62	61	62	64	64	65	64	
その他の職員	技能労務員										
	学校司書										
	用務員	8	8	8	8	8	9	8	8	7	7
	ボイラー技師	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2
	栄養職員	9	11	10	11	11	11	12	12	12	12
	調理給食員										
	技能訓練士										
	マッサージ師										
	運転手	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計	22	23	21	22	22	22	22	22	21	21	
合計	1,466	1,470	1,470	1,472	1,666	1,662	1,750	1,798	1,779	1,766	

2 特別支援学校及び特別支援学級の実態

(1) 特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

障がい種別	種別 校名	幼稚部		小学部		中学部		高等部				計	
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	本科		専攻科		学級数	児童生徒数
								学級数	生徒数	学級数	生徒数		
視覚	県立視覚支援学校			2	3	4	7	6	7	3	7	15	24
	小計			2	3	4	7	6	7	3	7	15	24
聴覚	県立聴覚支援学校	3	8	6	13	6	20	8	29			23	70
	県立聴覚支援学校福島校	2	6	5	8							7	14
	県立聴覚支援学校会津校	1	1	3	4							4	5
	県立聴覚支援学校平校	1	3	6	9							7	12
	小計	7	18	20	34	6	20	8	29			41	101
知的障がい	県立大笹生支援学校			32	100	17	54	19	102			68	256
	県立あぶくま支援学校			31	93	15	62	34	183			80	338
	県立西郷支援学校			16	44	10	31	11	57			37	132
	県立石川支援学校			14	38	4	14	15	76			33	128
	県立石川支援学校たまかわ校			17	42	6	20					23	62
	県立たむら支援学校			13	35	5	14	8	37			26	86
	県立会津支援学校			28	76	17	61	19	84			64	221
	県立猪苗代支援学校			5	13	3	10	4	21			12	44
	県立いわき支援学校			23	72	15	53	17	88			55	213
	県立いわき支援学校くぼた校							5	26			5	26
	県立富岡支援学校			12	30	3	7	7	19			22	56
	県立相馬支援学校			8	25	6	26	11	59			25	110
	福島市立福島養護学校			12	49	5	19	10	49			27	117
	小計			211	617	106	371	160	801			477	1,789
肢体不自由	県立郡山支援学校			28	72	19	55	19	50			66	177
	県立平支援学校			18	41	10	23	9	17			37	81
	小計			46	133	29	78	28	67			103	258
病弱	県立須賀川支援学校			9	16	5	16	19	57			33	89
	県立須賀川支援学校医大校			3	6	4	6					7	12
	県立須賀川支援学校郡山校			3	3	4	5					7	8
	県立会津支援学校竹田校			2	1	2	4					4	5
	小計			17	26	15	31	19	57			51	114
合計		7	18	296	793	160	507	221	961	3	7	687	2,286

(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別		小学校							中学校							計	
	種別 内容	弱視	難聴	知的	病弱・ 身体起弱	肢体 不自由	言語	自閉症・ 情緒	小計	弱視	難聴	知的	病弱・ 身体起弱	肢体 不自由	言語	自閉症・ 情緒		小計
県北	学校数	0	1	63	1	1	0	55	122	0	0	32	2	1	0	30	65	187
	学級数	0	1	82	1	1	0	78	163	0	0	39	2	1	0	40	82	245
	児童生徒数	0	1	400	2	5	0	417	825	0	0	198	2	1	0	193	394	1219
県中	学校数	0	1	77	0	0	0	64	142	0	1	40	0	0	0	32	73	215
	学級数	0	1	106	0	0	0	90	197	0	1	44	0	0	0	41	86	283
	児童生徒数	0	1	524	0	0	0	464	989	0	1	204	0	0	0	205	410	1399
県南	学校数	2	3	30	0	2	0	19	56	0	1	14	0	0	0	11	26	82
	学級数	2	3	36	0	2	0	22	65	0	1	15	0	0	0	12	28	93
	児童生徒数	2	3	164	0	2	0	115	286	0	1	55	0	0	0	45	101	387
会津	学校数	0	0	38	2	2	0	32	74	0	0	20	0	0	0	14	34	108
	学級数	0	0	44	2	2	0	36	84	0	0	22	0	0	0	14	36	120
	児童生徒数	0	0	212	2	2	0	148	364	0	0	82	0	0	0	44	126	490
南会津	学校数	1	0	7	1	0	0	6	15	0	0	3	0	0	0	2	5	20
	学級数	1	0	7	1	0	0	7	16	0	0	3	0	0	0	2	5	21
	児童生徒数	1	0	11	1	0	0	33	46	0	0	7	0	0	0	6	13	59
相双	学校数	0	1	26	0	0	0	19	46	0	1	13	0	0	0	10	24	70
	学級数	0	1	30	0	0	0	20	51	0	1	13	0	0	0	10	24	75
	児童生徒数	0	1	130	0	0	0	72	203	0	1	45	0	0	0	24	70	273
いわき	学校数	1	1	44	1	1	0	34	82	0	1	22	0	0	0	16	39	121
	学級数	1	1	60	1	1	0	45	109	0	1	27	0	0	0	17	45	154
	児童生徒数	1	2	340	1	3	0	248	595	0	1	138	0	0	0	82	221	816
計	学校数	4	7	285	5	6	0	229	536	0	4	144	2	1	0	115	266	802
	学級数	4	7	365	5	6	0	298	685	0	4	163	2	1	0	136	306	991
	児童生徒数	4	8	1781	6	12	0	1497	3308	0	4	729	2	1	0	599	1335	4643

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）※巡回型については、本務校1（学校数1、学級数1）で計上

管内	学校別		小学校							中学校							計	
	種別 内容	弱視	難聴	言語 障がい	自閉症	情緒 障がい	LD	ADHD	小計	弱視	難聴	言語 障がい	自閉症	情緒 障がい	LD	ADHD		小計
県北	学校数	0	0	4	3	1	4	5	17	0	0	0	1	0	1	2	4	21
	学級数	0	0	10	7	1	8	6	32	0	0	0	2	0	1	3	6	38
	児童生徒数	0	0	156	107	18	114	109	504	0	0	0	27	0	13	44	84	616
県中	学校数	0	1	2	8	1	0	8	18	0	0	1	1	0	0	2	4	22
	学級数	0	1	4	7	1	0	8	20	0	0	1	1	0	0	2	4	24
	児童生徒数	0	14	53	107	26	0	139	339	0	0	10	11	0	0	24	45	303
県南	学校数	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	学級数	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	児童生徒数	0	0	0	0	0	0	26	26	0	0	0	0	0	0	0	0	26
会津	学校数	0	0	0	0	0	3	2	6	0	0	0	0	0	1	2	3	9
	学級数	0	0	0	1	0	4	3	9	0	0	0	0	0	1	2	3	12
	児童生徒数	0	0	9	6	0	40	43	98	0	0	0	0	0	13	22	35	133
南会津	学校数	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	学級数	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	児童生徒数	0	0	0	0	0	0	63	63	0	0	0	0	0	0	0	0	63
相双	学校数	0	0	2	0	1	0	3	6	0	0	0	0	1	0	1	1	7
	学級数	0	0	6	0	1	0	4	11	0	0	0	0	1	0	1	2	13
	児童生徒数	0	0	101	0	19	0	76	196	0	0	0	0	6	0	14	20	162
いわき	学校数	0	0	5	1	1	0	2	5	0	0	0	1	0	1	0	2	7
	学級数	0	0	5	1	1	0	2	9	0	0	0	1	0	1	0	2	11
	児童生徒数	0	0	66	17	10	0	30	123	0	0	0	11	0	13	0	24	147
計	学校数	0	1	14	12	4	7	27	59	0	0	1	3	1	3	7	14	73
	学級数	0	1	26	16	4	12	30	88	0	0	1	4	1	3	8	17	105
	児童生徒数	0	14	385	237	73	154	486	1349	0	0	10	49	6	39	104	208	1557

(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数

年 度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
対象児童生徒数	75	89	69	90	80	69	58	55	54	49	50	43	42	39	43	38	33	34	36	36	32	30	29	29
担 当 教 員 数	36	41	36	45	36	41	33	33	35	27	27	27	27	30	29	24	19	27	32	18	18	18	18	18

(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移

年 度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2
猶 予 者 数	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
免 除 者 数	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

令和2年度の県立特別支援学校教職員の定数（補充教員は含まない）は、前年比1人増の1,597人となった。このうち、教諭等は、前年比2人増の1,376人である。

ア 新採用について

令和3年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、令和2年度に比べ、前年比5人増の239人（小中学校教員採用試験との併願者を含む）であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は54人であり、47人が教諭として採用された。

イ 交流について

令和2年度人事異動は、例年通り4月1日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含め179人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流（転入）は14人で、高等学校との交流（転入）は13人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

(2) 令和2年度県立特別支援学校教員異動・交流基準

ア 一般基準

- (ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡を図るように努める。
- (イ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。
- (ウ) 2親等以内の者（姻族を含む）は、原則として、同一校勤務を避ける。
- (エ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

イ 異動基準

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）
- 平成21年度以降採用の者で異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）
- 同一校に8年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

(イ) 地域による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表1のとおり中通り、会津、浜通りの3地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

ただし、平成20年度以前の採用者については、平成30年度までは旧基準（別表2）を準用し、15年以内に2地区及び2障がい以上の学校に勤務した者は、この規定を満たす者とみなす。

オ 交流

特別支援学校、小学校、中学校及び高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校、市町村公立小・中学校及び県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については、原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として3年から8年とする。

別表1 県立特別支援学校地域別学校分類表

地域	地 区	学 校	
中 通 り	県 北	視覚支援 大笹生支援	聴覚支援（福島） 須賀川支援（医大）
	県 中	聴覚支援 あぶくま支援 須賀川支援（郡山）	郡山支援 須賀川支援 たむら支援
	県 南	西郷支援 石川支援（たまかわ）	石川支援
会 津	会 津	聴覚支援（会津） 会津支援（竹田）	会津支援 猪苗代支援
浜 通 り	いわき	聴覚支援（平） いわき支援	平支援 いわき支援（くぼた）
	相 双	富岡支援	相馬支援

別表2 県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校分類表

群分類	I 群	II 群			
障がい	知的障がい教育を主とする学校	視覚障がい教育を主とする学校	聴覚障がい教育を主とする学校	肢体不自由教育を主とする学校	病弱教育を主とする学校
地区					
県北	大笹生支援	視覚支援	聴覚支援(福島)		須賀川支援(医大)
県南	あぶくま支援 石川支援 石川支援(たまかわ) たむら支援 西郷支援		聴覚支援	郡山支援	須賀川支援 須賀川支援(郡山)
会津	会津支援 猪苗代支援		聴覚支援(会津)		会津支援(竹田)
いわき	いわき支援 いわき支援(くぼた)		聴覚支援(平)	平支援	
相双	富岡支援 相馬支援				

注：平成20年度までの採用教員について

- (1) II群内の学校のみ経験者は、I群の学校に勤務することを必須とする。
- (2) I群の学校に勤務している者又は勤務した者で、2障がいの経験を有していない者は、II群内の学校での勤務をするものとする。
- (3) ただし、平成7年度までに2地区及び2障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではない。

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

学校教育審議会答申(平成21年9月)の基本理念「地域で共に学び、共に生きる教育」をもとに、第6次総合教育計画(改訂版)で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境の整備を進めた。第6次総合教育計画(改訂版)では、次の基本的な方針のもとに、大きく6つの具体的な取組を示し、その充実に努めた。

○ 基本的方向性

- ・ 障がいのある子どもが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、保健、福祉、教育、労働等の関係機関の連携を深めることなどにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。
- ・ 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

○ 具体的な取組

- ・ 地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進
- ・ 小・中学校における特別支援教育の充実
- ・ 高等学校における特別支援教育の充実
- ・ 特別支援学校におけるセンター的機能の充実
- ・ 教員の特別支援教育に関する指導力の向上
- ・ 特別支援学校の在り方の検討(再掲)

(2) 指導組織

課長、主幹兼副課長1名、主幹1名、主任管理主事1名、管理主事4名、主任指導主事1名、指導主事5名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員8名をもって指導に当たった。

(3) 学校教育指導の重点

特別支援学校においては、特に以下の点に重点をおいて指導に努めた。

① 一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実

児童生徒一人一人の実態と教育的ニーズの的確な把握に努め、家庭や医療、福祉、労働等の関係機関と連携した「個別の教育支援計画」の作成と活用について、教育支援協議会(書面開催)や体制促進協議会等の各種会議で周知に努めた。

- ② 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善
新学習指導要領を踏まえた各教科等の指導を通して、
資質・能力の3つの柱の育成がバランスよく実現できる
ように、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し
ながら、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」
の視点を取り入れた授業の実施や改善を行った。
- ③ 言語環境の整備と言語活動の充実
移動図書館車での巡回貸し出しや幼児児童生徒に本に
親しむ機会を設け、読書の楽しみを感じてもらう活動を
実施した。また高等部生徒を中心に各種弁論大会等への
参加など、教科学習と関連づけながら言語活動の充実に
取り組んだ。
- ④ 自立活動の充実
児童生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難を改
善・克服し、自立し社会参加する資質を養うために、
個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、自立活動の
内容項目を踏まえた指導目標と指導内容を設定して「個
別の指導計画」を作成している。個々の課題や指導目標
を担当者間で共有し、計画的・組織的な自立活動の指導
を行った。
- ⑤ 職業教育の充実
「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、全
ての高等部設置県立特別支援学校による「特別支援学校
作業技能大会」を開催した。また、「次世代のふくしまを
担う人材育成事業（特別支援学校における就労推進事
業）」において、生徒の就職率とその定着率の向上を目指
し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者に
よる進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関
する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携し
た支援体制の構築を図った。
- ⑥ 生徒指導の充実
幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員
の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導
に努めるとともに、家庭や関係機関との連携に努めた。
また、県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協
議会を11月に開催し、本県の生徒事故の現状や課題の
共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充実に努め
た。
- ⑦ 交流及び共同学習の推進
近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共
同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流を通
し、幼児児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、
障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重す
る心を育むことに努めた。
- ⑧ 特別支援学校のセンター的機能の発揮
各地区の特別支援学校地域支援センターのセンター的
機能を活かし、県内10箇所で開催を実施し、適切な
支援を行うことができるよう専門性の向上を図るととも
に、地域の学校等との連携体制の構築に努めた。

(4) 教員の資質と指導力の向上

- ア 「切れ目のない支援体制整備事業」事業担当者会議の
開催
事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等
の報告及び課題についての協議を行った。また、各教育
事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指
導の重点等についても研究協議を行い、各教育事務所域
内の特別支援教育の充実にに向けた指導業務の円滑な推進
を図った。
- イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催
特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校
教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指
導委員の資質の向上を図った。
- ウ 特別支援学校初任者研修、二年次教員フォローアップ
研修、経験者研修の実施
特別支援学校の初任者に対し、校内・校外における研
修を通して、実践的指導力と使命感を養った。
また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内にお
けるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修にお
いて、教科（領域）指導研修や社会体験研修等を行った。
- エ 特別支援教育担当教員専門研修
特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に
対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指
導力の向上を図るため、教員6名の派遣を予定していた
国立特別支援教育総合研究所の専門研修が、新型コロナ
ウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。
- (5) 就学相談の推進
学校教育法施行令の一部改正による就学先決定の仕組み
等の周知を図るため、市町村教育委員会就学事務担当者
と公立中学校管理職を対象に教育支援協議会を県内7か所
で開催した。また、市町村の就学先決定における相談の充実
については、各教育事務所で支援し、障がい児の早期から
の一貫した支援の充実に努めた。
- (6) 特別支援教育の推進
ア 特別支援学校における医療的ケア実施事業
「令和2年度特別支援学校における医療的ケア実施事
業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療
的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケ
アの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医
療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生
徒は除く）が、在籍している学校（13校）に看護師を配
置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の
委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制
の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医
療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。
※看護師配置校
聴覚支援学校福島校、聴覚支援学校会津校、
大笹生支援学校、郡山支援学校、あぶくま支援学校、
須賀川支援学校、西郷支援学校、石川支援学校、
会津支援学校、会津支援学校竹田校、平支援学校、
いわき支援学校、相馬支援学校

【令和2年度医療的ケア実施運営協議会委員】

氏名	委嘱時の職名
◎森田 浩之	県総合療育センター・所長
○生井 良幸	太田西ノ内病院・小児科部長
古橋 知子	福島医科大学看護学部・准教授
斎藤 昭弘	保健福祉部障がい福祉課・専門員
佐藤 大介	子ども未来局児童家庭課・主任主査
杉山 裕恵	県特別支援教育センター・所長
鈴木 仁	白河こひつじ学園・相談支援アドバイザー
今泉 佳子	郡山支援学校・保護者
大竹奈保子	聴覚支援学校福島校・教頭
佐々木孝幸	聴覚支援学校会津校・教頭
菅野かおり	大笹生支援学校・教頭
小林 直輝	郡山支援学校・教頭
喜多見久美	あぶくま支援学校・教頭
鈴木 貴之	須賀川支援学校・教頭
小野 美花	西郷支援学校・教頭
小川 令子	石川支援学校・教頭
田中久美子	会津支援学校・教頭
大和田 浩	会津支援学校竹田校・分校長
千葉 秀樹	平支援学校・教頭
瀧本 実加	いわき支援学校・教頭
持舘 康成	相馬支援学校・教頭
井手しのぶ	平支援学校・看護師
遠藤しのぶ	郡山支援学校・看護師

(◎委員長 ○副委員長)

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

- 第1回 令和2年6月29日
- 第2回 令和2年11月18日

【会議における検討事項】

- 特定行為以外の医療的ケアについて
- 医療的ケアマニュアル（暫定版）について

【看護師研修会の開催】

- 年1回の医療的ケア実施校看護師研修会を郡山支援学校において実施した。

イ 「切れ目のない支援体制整備事業」による市町村における支援体制整備の促進

県内7地区において「特別支援教育体制促進協議会」を年2回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や各園・学校等における特別支援教育の充実のための具体的方策について協議するとともに、相談体制の整備や相談支援ファイルの活用促進に取り組んだ。

ウ 地域支援体制の充実

県立特別支援学校が、地域における特別支援教育のセンター的機能の役割を発揮し、小・中学校等や市町村教育委員会のニーズに応じた相談や研修等の支援を実施した。

相談・研修件数は2,799件であった。

また、県内の各教育事務所が地域支援のコーディネーターとなり、相談支援チームを編制し、市町村や小・中学校等への支援の在り方や具体的な方策について協議するとともに、地域の小・中学校等における特別支援教育の充実に向けた支援を実施した。

エ 「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい等のある生徒の支援の充実

平成17年度から平成23年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「LD等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、令和2年度は県立高等学校18校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実を図った。

オ 障がいのある幼児児童生徒の就学相談の充実

市町村教育委員会、公立中学校管理職を対象に学校教育法施行令の一部改正に伴い、書面開催による「教育支援協議会」において、就学先決定の流れや特別な支援を必要とする生徒の支援等について説明をし、障がい児の一貫した支援に努めた。また、本協議会を通して各市町村における早期からの相談支援体制の整備と各学校における教育相談の充実を図った。

2 現職教育

(1) 教員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教員の資質向上に努めた。

名称	期日	期間	会場	人数	対象
特別支援学校教育課程運営改善講座	8月19日	1日	県特別支援教育センター	25	特別支援学校教員
特別支援学級等新任担当教員研修会	10～11月各地区	1日	環境創造センター	80	特別支援学級担当教員
通級指導教室担当教員研修会	7月15日	1日	環境創造センター	59	通級指導教室担当教員
特別支援学校経験者研修Ⅰ	6月16日～6月19日	3日	県特別支援教育センター	42	特別支援学校教員
特別支援学校経験者研修Ⅱ	6月23日～6月26日	4日	県特別支援教育センター	36	特別支援学校教員

※経験者研修Ⅱは、4日間のうち2日間ずつに分かれて実施

特別支援学校初任者研修

名 称	期 日	期間	会 場	
宿泊研修	一次研修	8月6日～8日	3日	磐梯青少年交流の家
	二次研修	2月5日～7日	3日	いわき海浜自然の家
一般研修	4月16日	1日	各所属校	
カウンセリング研修	6月10日～11日	2日	環境創造センター 各所属校	
地区別研修	講習会研修会等参加研修	各校で実施	1日	各地区内の該当学校等
	他校参観研修	各校で実施	5日	各地区内の該当学校等
	企業等体験研修	各校で実施	4日	各地区内の該当学校等
教育課程別研修	9月9日	1日	初任者配置校	
学部別研修	11月11日	1日	初任者配置校	
	年間150時間以上		各所属校	

3 教育課程

(特別支援学校教育課程運営改善講座)

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

地区	期 日	会 場	人数	参加対象
県内	8月19日	県特別支援教育センター	25	特別支援学校の教務主任等

(2) 特別支援教育教員短期研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修 2か月）

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、短期研修は中止になった。代替措置として、非集合型オンライン研修が実施され、受講予定者は視聴等を行い、教員としての資質向上を図った。

(3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校（義務教育学校を含む。）の特別支援教育コーディネーターに対し、インクルーシブ教育システムの理解を深め、校内支援体制や児童生徒への配慮や支援等についての役割を研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(4) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、インクルーシブ教育システムの理解を深め、校内支援体制や生徒への配慮や支援等についての役割を研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、開催中止となった。

4 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング(登校学習)を実施した。

さらに、大笹生支援学校、郡山支援学校、石川支援学校、会津支援学校では、高等部の訪問教育を実施している。

実施状況は次のとおりである。

校名	学級数 児童生徒数		学級数						児童生徒数						スクーリング児童生徒数					
	小学部	病院訪	中学部	病院訪	高等部	病院訪	学部計	病院訪	小学部	病院訪	中学部	病院訪	高等部	病院訪	学部計	病院訪	小学部	中学部	高等部	計
大笹生支援学校	2		1		1		4		4		1		3		8		4	1	3	8
郡山支援学校	1		1		1		3		2		1		3		6		2	1	3	6
須賀川支援学校郡山校		1		1				2		2						2				0
須賀川支援学校医大校				1				1				1				1				0
石川支援学校					1		1						1		1				1	1
会津支援学校	1				1		2		1				1		2		1		1	2
平支援学校	2	1	1				3	1	4	2	2				6	2	3			3
相馬支援学校	1						1		1						1		1			1
合計	7	2	3	2	4	0	14	4	12	4	4	1	8	0	24	5	11	2	8	21

5 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達の段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導支援に努めた。

(2) 進路指導

ア 夢に向かってテクノチャレンジ事業

(ア) 事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

(イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 16校
 福島大学附属特別支援学校
 福島市立福島養護学校 計 18校

(ウ) 実施状況

a 特別支援学校作業技能大会の開催

- ・期日 8月5日(水)
- ・場所 ビッグパレットふくしま

b 実施部門

- ・作業技能検定部門
 ビルクリーニング、喫茶接遇サービス、パソコンデータ入力、店舗販売(品出し)

・デモンストレーション部門

視覚支援学校理療科のあん摩マッサージ等の技術披露は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、中止となった。

c 外部評価の活用

- ・各作業技能検定部門に関する助言
- ・作業技能検定部門の審査

イ 次世代のふくしまを担う人材育成事業(特別支援学校における就労推進事業)

(ア) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることのできる人材育成を充実させることにより、就職率と定着率の向上を図る。

(イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 16校
 福島大学附属特別支援学校
 福島市立福島養護学校 計 18校

(ウ) 実施状況

a 進路支援チーム会議の実施

- ・特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議
- ・障がい者就業・生活支援センターとの連携強化

b 移行支援機能の充実

- ・関係機関と連携した、早期からの移行支援会議の

実施

- ・在学中から卒業後までの長いスパンでの支援
- c 企業の求める人材育成
 - ・作業学習の内容や手法の見直し
 - ・ジョブコーチや企業等からの指導助言
 - ・「障がい者就職面接会」への参加
 - ・「特別支援学校早期訓練コース」の活用
- d 外部評価の活用
 - ・「特別支援学校作業技能大会」における作業技能検定の活用
 - ・「障がい者技能競技大会」への参加

6 特別活動

(1) 卒業式

ア 県立特別支援学校卒業生数

学部 障がい	学部					合計
	幼稚部	小学部	中学部	高等部		
視覚障がい			3	5	8	
聴覚障がい	6	6	8	10	30	
知的障がい		87	107	246	440	
肢体不自由		23	21	21	65	
病弱		2	12	25	39	
計	6	118	151	307	582	

イ 県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

学部	開催日										
	3月1日	3月2日	3月5日	3月9日	3月10日	3月11日	3月12日	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日
幼稚部								1	1	1	1
小学部				1	2	1	4	4	5	2	
中学部				1	2	2	3	4	5	1	
高等部	4	1	1	1	1	1	1		3	3	1

(2) 修学旅行

学部	行き先 日数	行き先					日数				人数
		県内	東北	関東	関西	北海道	日帰り	一泊二日	二泊三日	三泊四日	
小学部	9	1	1			11	6			91	
中学部	10	1	2			2	10	1		102	
高等部	7	3	1				5	6		205	

7 学校訪問

県立特別支援学校

経験者研修Ⅰ、Ⅱの研究授業日に学校訪問を実施した。

No.	訪問日	学校名
1	11月11日	視覚支援学校
2	12月8日	猪苗代支援学校
3	12月9日	平支援学校
4	12月17日	大笹生支援学校

8 県立学校学校教育指導委員

氏名	職名	所属校
高橋 英之	教諭	視覚支援学校
武内喜美子	教諭	聴覚支援学校
遠藤孝太郎	教諭	平支援学校
小山内 愛	教諭	須賀川支援学校郡山校
富田 篤	教諭	大笹生支援学校
田中真由美	教諭	石川支援学校
會田 晃子	教諭	西郷支援学校
岡崎あゆみ	教諭	いわき支援学校

9 就学指導

(1) 福島県特別支援教育推進会議

福島県特別支援教育推進会議委員

委員	職名
学識見識者	大学教授
関係機関	福祉関係代表
関係機関	県総合療育センター所長
関係機関	県保健福祉部障がい福祉課長
関係機関	県保健福祉部こども未来局児童家庭課長
関係機関	県商工労働部雇用労政課長
教育関係	小学校長会代表
教育関係	中学校長会代表
教育関係	高等学校長会代表
教育関係	特別支援学校長会代表
教育関係	県特別支援教育センター所長
教育関係	県教育庁特別支援教育課長

(2) 教育支援協議会

ア 期日及び会場

地区	期日	会場	参加者数
県北	6月	書面開催	41
県中	6月	書面開催	56
県南	6月	書面開催	18
会津	6月	書面開催	35
南会津	6月	書面開催	7
相双	6月	書面開催	26
いわき	6月	書面開催	39

イ 参加者

- ・公立中学校管理職

ウ 説明及び協議

(ア) 説明

「特別な支援が必要な生徒への支援のあり方について」

書面開催とし資料を送付

(イ) 説明及び協議

書面開催のため、実施せず

10 教科用図書

(1) 教科用図書事務説明会

ア 開催日時・場所

令和2年6月5日・自治会館

イ 参加者

各教育事務所 各市町村教育委員会
特別支援学校教科書担当者

(2) 学校教育法附則第9条に規定する一般図書の展示期日及び会場

6月9日～6月11日	大笹生支援学校
6月15日～6月17日	会津支援学校
6月19日～6月23日	南会津町役場
6月25日～6月29日	西郷支援学校
7月1日～7月3日	あぶくま支援学校
7月7日～7月9日	相馬支援学校
7月13日～7月15日	平支援学校
7月17日～7月21日	県特別支援教育センター (一般公開)

11 教育研究団体

(1) 令和2年度福島県特別支援学校長会役員

役職名	氏名	所属校
会長	小檜山宗浩	聴覚支援学校
副会長	橋本 淳一	視覚支援学校
副会長	佐藤 成紀	福島市立福島養護学校

(2) 令和2年度福島県特別支援学校教頭会役員

役職名	氏名	所属校
会長	香取 重治	須賀川支援学校郡山校
副会長	高木美江子	平支援学校
副会長	菅野かおり	大笹生支援学校

(3) 福島県特別支援教育研究会

ア 組織

役職名	氏名	所属校
会長	佐藤 成紀	福島市立福島養護学校
副会長	小檜山宗浩	聴覚支援学校
副会長	酒井 勝弘	郡山市立橋小学校

イ 事業の概要

事業名	期日	会場	概要
役員会	2月12日	県特別支援教育センター	R2事業報告、R3事業計画について

(4) 福島県特別支援教育振興会

ア 役員

役職名	氏名	所属
会長	鈴木 敏夫	仁愛看護福祉専門学校長
副会長	櫻井 和朋	元県PTA連合会長
副会長	齊藤 義人	元福島商業高等学校長
理事	小野 寛	県北支部長
理事	道下 和幸	県中支部長
理事	小河原健一	県南支部長
理事	木村 秀	会津支部長
理事	只野 裕一	相双支部長
理事	大谷 明	いわき支部長
理事	小檜山宗浩	本部事務局長(聴覚支援学校長)
監事	杉山 裕恵	県特別支援教育センター所長
監事	高屋 隆男	東北福祉大学准教授 元聾学校長
顧問	柳沼 穹壹	元あぶくま養護学校長

イ 事務局

(ア) 本部事務担当

聴覚支援学校	校長	小檜山宗浩
聴覚支援学校	教頭	小山田幸江
聴覚支援学校	教頭	菅野 亨
聴覚支援学校	事務長	田澤 好一

(イ) 支部

支 部	事務局校	支 部	事務局校
県 北	視覚支援学校	会 津	会津支援学校
県 中	郡山支援学校	相 双	相馬支援学校
県 南	石川支援学校	いわき	平支援学校